

<解答>

2026年度 大学院博士前期課程試験問題(第1回)  
[環境計画分野](配点50点)

2025年07月19日実施

以下1、2、3の問いに答えなさい。

(解答用紙は、それぞれの設問に対して、必ず1枚ずつ使用すること。裏面まで使ってもよい)

1. 下記の3つのタームについてそれぞれ100字程度で簡単に説明しなさい。(配点15点)

1) グリーンインフラ

公園や森林、河川、湿地などの自然環境を都市や地域の基盤として活かし、防災・環境保全・気候変動対策・生物多様性保全に役立てる仕組みで、持続可能で快適な暮らしを支える考え方

2) 生物多様性

動植物や微生物の多様な種類、それらの遺伝的な違い、生息する生態系の多様性を指す。多様性が保たれることで、自然のバランスが維持され、人間社会の暮らしや文化も豊かに支えられる。

3) 生態系サービス

人間が自然から受けている恵みや利益のことです。食料や水の供給、洪水防止や気候調整、景観や文化的価値の提供などが含まれ、生物多様性と健全な生態系によって成り立っている。

2. 「都市におけるビオトープ保全の意義」について200字程度で簡潔に論述しなさい。(配点15点)

第一に、動植物の生息環境を守り、生物多様性を維持する役割があります。都市化により失われがちな緑や水辺を残すことで、希少種や身近な生き物の命をつなぐことができる。第二に、子どもたちの環境教育や市民の自然体験の場となり、自然への理解と愛着を育む効果がある。さらに、雨水の浸透や都市のヒートアイランド緩和など、防災・気候適応の機能も果たす。都市のビオトープは、自然と人をつなぐ重要な基盤となる。

3. 日本の風土に合った自然再生と環境デザインのあり方について400字程度で論述しなさい。(配点20点)

自然再生、環境計画・設計を行う際、その土地の気候、地形や景観等だけでなく、人間の生活、歴史、文化等も考慮に入れた計画等を行うことが求められている。ところで、風土とは、主にある土地の気候・気象・地形・地質・景色(景観)などの総称という概念で使われる用語である。和辻哲郎によると「風土」は単なる自然現象ではなく、その中で人間が自己を見出すところの対象であり、文芸、美術、宗教、風習などあらゆる人間生活の表現が見出される人間の「自己了解」の方法である。こうした規定をもとに具体的な研究例として、モンスーン、砂漠、牧場を挙げ、それぞれの類型地域における人間と文化のあり方を把握しようとした。歴史景観保全地区や地域の在来種を用いた公園緑地設計等、それぞれの地域の風土にあった計画や設計が日本国内の様々な場所で求められている。